令和４年９月

令和５年春新入寮生を募集します

公益財団法人 山梨共修社

１．受験資格（次の（１）と（２）双方とも満たすこと）

（１）山梨県内の高等学校を卒業し、４年制大学または６年制大学に入学見込みあるいは在学中の男子

（２）本人の保護者の本籍および現住所が山梨県内にあること

２．願書受付

第一回試験 受付 令和４年１２月１７日（土）必着（郵送、持参可）

第二回試験 受付 令和５年 ２月２５日（土）必着（郵送、持参可）

第三回試験 受付 令和５年 ３月１１日（土）必着（郵送、持参可）

３．提出書類

（１）入寮願書（本寮指定用紙） ※ホームページにも掲載

（２）本人と保護者の住民票（本籍地記載のもの）

（３）大学の合格証明書または在学証明書（コピーで可）

４．入寮試験および面接日

第一回試験 令和４年１２月１８日（日）１３時より

第二回試験 令和５年 ２月２６日（日） １３時より

第三回試験 令和５年 ３月１２日（日） １３時より

（注）当日１２時４５分までに来寮のこと（筆記用具持参）

５．合否発表

合否は各試験日当日の夕方までに電話で連絡します。

112-0011 東京都文京区千石 4-9-1
公益財団法人 山梨共修社
入寮選考委員会
選考委員担当責任者 竹下航平
連絡先 070-3401-7979
https://yamanashikyousyusya.amebaownd.com/

山梨共修社 沿革

明治34年、東京帝国大学法科の学生・満田寛一（大陪審判事）、第一高等学校生徒・田邊治通（逓信大臣）、八巻良三（医学博士）の三氏が、県出身学生のための寄宿舎建設を提案し、在京県人の長老、八巻九萬氏（代議士）の賛助を得て在京諸先輩に寄付を募り、明治35年、本郷区駒込蓬莱町の2階建民家を購入、在京学生を収容したことから始まります。

大正2年、財団法人山梨共修社となり、大正6年、社出身の内藤多仲氏（工学博士早大名誉教授）の設計で、小石川区宮下町に新寮舎を建造しました。その資金は、根津嘉一郎、若尾民造、志村源太郎、中島滋太郎、神戸挙一，若尾璋八の諸氏をはじめ、在京実業人および全県下有志からのご厚志によるものでした。

その寮舎は昭和20年の戦災により焼失してしまいましたが、社出身の林忠美、内藤多仲、雨宮育作、宮沢源吉、田邊加多丸氏らが再建を検討し、社出身の野口二郎氏（山日社長）を訪ねたのをきっかけに、山梨県人会連合会会長の広瀬久忠氏（厚生大臣、初代理事長）に懇請し、県人会役員の武井定光、小林儀光、渡辺桃年、小沢清治、大久保松代の各氏を中心に在京有志のご協力を得るとともに、天野久知事をはじめとする県下有力者のご協力により、昭和29年、26名収容の寮舎が再建されました。昭和33年には坂本正三郎氏のご厚志により坂本寮が寄贈され、51名収容の寮舎となりました。

昭和58年、老朽化した木造の寮舎は取り壊され、昭和59年に鉄筋コンクリートの新寮舎を建造し、改修を経て現在に至っております。

主な卒寮生

【政官法曹界】

満田寛一（大審院判事、初代社監）、田邊治通（大阪府知事、逓信大臣）、桑原幹根（愛知県知事）、内藤丈夫（東京控訴院判事）、林忠美（海軍主計大佐、白十字会理事長、東京市電気局長）、内田常雄（厚生大臣、自民党幹事長）、山本三郎（建設省事務次官）、大柴滋夫（代議士）、吉田冨士雄（大蔵省関税局長、ＥＣ日本代表、サントリー副社長）、大柴文雄（代議士）、山中伸一（文部科学省事務次官、ブルガリア大使）

【学術・芸術・文化領域】

川村麟也（新潟医大名誉教授）、雨宮育作（東大名誉教授、アユの研究、三代目社監）、小田切米作（陸軍士官学校教官、法政大教授、二代目社監）、向山孝之（東北帝大教授、四代目社監）、内藤多仲（早大名誉教授、東京タワー設計、戦前の寮舎設計）、前嶋信次（慶大教授、東洋文学の権威、寮歌作詞）、篠原登（東海大学長、科学技術庁顧問）、浅川栄次郎（早大教授、早実校長）、望月春江（日本画家、日展審査員）、島田敏男（ＮＨＫ解説委員）

【財界】

田邊加多丸（勧業銀行頭取、東宝社長）、樋口実（三菱地所社長）、中島鼎（郵船運輸社長）、野口二郎（山梨日日新聞社社長）、浅尾新甫（日本郵船会長）、小田切賢（東海汽船会長）、新海栄一（古河鉱業会長）、水上達三（三井物産相談役、県人会長、二代目理事長）、日向方斎（住友金属工業名誉会長）、早川壮一郎（東電副社長）、生原誠三郎（東芝ボデー、くろがね車体社長、山梨中銀役員、五代目社監、三代目理事長）、三神良三（東京会館社長）、名取政造（東芝商事会長）、猪股進（東武ガス社長、六代目社監）、坂本孝（ブックオフ名誉会長）、中島敬二（インド住友商事社長）